

地区の交流度はピカいち！北分地区

安心・安全な地域づくりや
支え合い活動に取り組み団体
を県が表彰する平成27年度
「しまね流 福祉のまちづく
り活動団体」に、北分地区福祉
会が選ばれ、1月27日(水)、溝
口善兵衛知事から福祉会会長
の石原陽三さんへ表彰状が手
渡されました。

北分地区福祉会は平成14年
の発足以来、「新たな地域づく
りへの挑戦」をテーマに掲げ、
地元住民と移住者の繋がりがり
づくりを重視した活動を続けて
います。例えば全区民が参加
する年に一度の「わくわく運動
会」には企画からイターナー者



県庁での表彰式にて。右から石原会長、溝口知事、海士町社協の片桐事務局長



2月に行われた交流会にも老若男女が集合！

も関わったり、「世代間交流会」
では子供会や母親クラブ、老
人会、婦人会などが協力しあっ
てジャンボ巻き寿司づくりに
挑戦するなど、福祉会がパイ
プ役を担って若者から高齢者
まで多くの人を巻き込み、島
暮らしの楽しみを共有しあい、
地域の活性化につなげていま
す。

今年の夏は北乃惣神社の大
祭りも予定されている北分地
区。住民の皆さんの元気がま
ますアップしそうです！

残そう 自然と生活が調和した島の風景

住民参加の「景観計画」策定へ

「日本で最も美しい村連合」に加盟し、《美
しい風景を残す島》をまちづくりの理念とし
て掲げている海士町。今年の子ども議会でも
ゴミ問題についての提言が相次ぐなど、子ど
もから大人まで、環境保全や島らしい景観づ
くりへの関心度が高まっています。

そんな中、2月28日(日)、海士町役場にお
いて「海士のこれからの景観を考える日」と題
したワークショップが開催され、さまざまな職
種や年代の約40名が参加しました。

海士町は昨年10月に景観条例を制定、平
成28年度の始めには景観計画を策定する予
定で、景観に関心の高い住民の意見をその計
画に反映させるため、環境整備課と株巡の環
の共催で今回の会が開かれました。



参加者は、「残した
い景観は?」「残念な
景観は?」などの観点
から意見を出し合い、
例えば残したい景観で
は「水を張った田んぼ」
や「日須賀の夕陽」と
いった自然の様子か
ら、「綱引きの応援」、
「大祭り」、「子どもが
素潜りしている風景」
といった島民の暮らし
ぶりを含むもの、「春を

感じる鳥のさえずり」、
「朝5時に牧へ行くと牛
が寄ってくる、人と牛が
関わり合うその瞬間」な
どの繊細な感情を伴う
ものまで、自由な声があ
くさん出ました。

後半は分科会形式で、景観計画で大切に
したい考え方について議論を深め、歩いて移動
する観光客の視点に立つて「菱浦から隠岐神
社までの道を花いっぱいになりたい」という案や、
教育に携わる立場からは、「見た目の美しさ
を求めるより、今残されている自然環境の価
値を一人ひとりが分かっている状況にもってい
かないと何も残せない」という指摘、また、
「《残したい景観20選》を全町民で選んではど
うか」といった案などが示されました。

4時間という長丁場でしたが、「色んな人
と話せて勉強になった。理想だけではだめだ
と痛感した」「自分は移住者だが、地元民に
とつての海士らしさがどういうものか聞けて参
考になった」「景観づくりは文化や子育てなど
すべてに繋がっていると感じた」等々、立場を
超えて島の未来について話し合ったことに手
応えを感じた方が多かったようです。

今後海士町では、今回出た有効な提案を
素案に反映させ、審議会の審議を経て、4月
を目途に景観計画を完成させる予定です。

